

安心して生活できる学級づくり

—所属感を高める総合単元的な道德学習の実践を通して—

海老澤 智
児童生徒支援コース

1. 研究の目的

近年、不登校児童生徒の増加が課題となっており、要因の一つとして「友人関係をめぐる問題」が挙げられている。学級内で自己と他者の違いを受容し、尊重し合うことが、学校生活を楽しく過ごすために重要であると考えた。アドラー心理学では、「所属感」が幸せな生活に不可欠とされている。そこで、本研究では「所属感」に着目して「私は学級の一員であり、学級は私にとって必要だという感覚である」と捉えることとし、所属感を高めるための総合単元的な道德学習を実施して「児童がみな自己と他者との違いを受容し尊重し合うことができれば、安心して生活できる学級づくりを実現できるだろう」という仮説のもとに実践研究を行った。

2. 基本的な考え方

(1) 「安心して生活できる学級」とは

「安心して生活できる学級」を作るためには、「学級の中での安心」を子供たちに実感してもらうことが必要である。筆者は、子供たちに安心を実感してもらうためには、友人や教師との対人関係の中で自分を受け入れてもらうことが必要だと捉えた。そして、本研究では、安心して過ごせる学級を「互いに受容し合い自分自身が受容されていると実感することで安堵や幸福感を感じることができる学級」と捉えることとした。

(2) 「所属感を高める」とは

「所属感を高める」について、学級のなかで自分の存在を肯定したり他者に認められていると実感して自分にとって学級が必要であると感じたりすることで情緒的に強くなり、自分を信頼し、挑戦や困難に向き合うことができる状態を目指すことであると考えた。そのため本研究では、学級という共同体の中で自己理解や相互理解を深め合っていくことで、学級は自分にとって安心できる場所であり必要であると感じさせることをねらいとする事とした。

(3) 「総合単元的な道德学習」とは

「総合単元的な道德学習」について、各教科や領域などの全教育活動を通して育まれる豊かな心や道德性を道德の時間を核にして補充・深化・統合する指導や子供たちが主体的に道德学習をしていけるための支援を具体的にかつ計画的に実践していく活動であると捉えることとした。

3. 分析の手立て

(1) 小学生用学級適応感尺度¹ 江村・大久保（2012）について

本研究では、児童の所属感の高まりを測る尺度として、江村・大久保（2012）の小学生用学級適応感尺度を用いることとした。全ての項目は4件法で回答を求めた。

¹ 江村早紀・大久保智（2012）「小学校における児童の学級への適応感と学校生活との関連 小学生用学級適応感尺度の作成と学級別の検討」（発達心理学研究）

(2) 総合単元的な道德学習振り返りシート（自由記述）について

所属感を高めることに関する児童の変容をみとったり、所属感をさらに効果的に高めたりするために、自由記述による振り返りシートを作成し、各授業後に実施した。

4. 研究の実践内容

(1) 対象

茨城県公立 X 小学校 第 6 学年 Y 組 26 名（男子 18 名、女子 8 名）

(2) 調査期間

前期：2024 年 6 月 3 日（月）～ 6 月 21 日（金）（授業全 3 回）

後期：2024 年 10 月 4 日（金）～ 10 月 18 日（金）（授業全 3 回）

(3) 実践内容

各期、総合単元的な道德学習となるよう特別の教科 道德、学活、国語の順番で授業を実践した。また、授業後には総合単元的な道德学習振り返りシート（自由記述）を用いて授業の振り返りや学びをその後の生活で活用できているかチェックしたりする取り組みを行った。

5. 研究の結果

(1) 尺度調査の結果

各期の調査結果を用いて t 検定を行った。その結果、数値には有意差があり低下した。そのため、本研究で期待する結果と逆の結果になったことが分かった。

(2) 自由記述調査の結果

①児童 A について

「友達の良いところを会話の中でさりげなく伝えたりなどの工夫をして相手に伝えることを学校生活で工夫していきたい。」等の記述がみられ、自分なりに考え具体的に記述しており、相互に受容し合っていこうとする意欲が表出されていると捉えた。

②児童 B について

特別の教科 道德では「けんかしてもおちついてれいせいを大切にしたい。」と記述しており、授業のねらいからはずれたものとなっていた。

6. 研究の考察

今回の実践では、尺度調査の結果が本研究で期待する結果と逆の結果になった。その理由を考察していくと、主に次の二つが考えられた。

(1) 各授業のつながりの意識付けについて

一つ目の理由は、総合単元的な道德学習における各授業のつながりに対する児童の意識が弱かったことだ。授業の導入時に前回の授業とどのようにつながっているのかを説明したり、振り返りシートにて最初から各授業のつながりについて明記したりするなどして各授業の内容がつながっていることを児童にも意識付けすることが今後の課題である。

(2) 特別の教科 道德の授業について

二つ目の理由は、総合単元的な道德学習の核となる特別の教科 道德の授業で授業のねらいに沿った資質・能力を育成しきれなかったことだ。教材研究で目指す児童像やそれを実践するために身に付けるべき資質・能力に題材が沿っているものか十分精査したり、授業のねらいを児童たちに捉えてもらえるような導入や発問を取り入れたりすることが今後の課題である。